

公開講演会のご案内

「いまあらためて社会デザインを考える： 危機の中の社会統合～ともに生きる条件とは何か」

<日時> 2015年5月23日(土) 13:40～16:30

<場所> 立教大学池袋キャンパス マキムホール M301 教室

私たちは一人で生きることができない。ところが、21世紀に入り、ともに生きることの困難を思い知らせる出来事が地球的な規模で頻発している。中東やアフリカでの戦闘、拉致、居住地や共同体の破壊、住処を追われて海を渡ろうとする難民の遭難、欧州でのテロ事件と排外主義…そして頻発する巨大災害。これらの出来事を私たちは他人事のように眺めてきたが、まさしく他人事のように眺めてきたことによって21世紀の文明社会の危機は取り返しのつかない事態に直面してはいないか。

しかし、いま私たちに求められているのは、「オオカミが来た…」的な警鐘をならすのではなく、いかにして皆が共に無事に生きられる世界を作っていくか、そのための条件は何なのか、について地道に思索を深めることではないか。

21世紀社会デザイン研究科は2002年の設置以来、地球規模の危機管理の必要を唱えて研究教育活動を展開してきたが、目的を共有する社会デザイン学会との共催でシリーズ「いまあらためて社会デザインを考える」を企画した。

今回はシリーズの序章として「社会統合」を中心テーマに、宗教、ジェンダー、貧困、移民、等に関わる課題をとりあげ、講演とパネル討論を行いたい。具体的には、浪岡新太郎氏に欧州の移民問題を通して見える女性の社会的条件とイスラムの関係について、藤巻秀樹氏には日本における多文化共生の現状と課題について、また、坂本文武氏には社会学の視点から共同体論におけるコミュニティ概念の変遷と今後の課題についての講演をお願いする。モデレーターの笠原清志氏にはバングラデシュにおける貧困解決の努力の事例を念頭に討論の道案内をお願いする。

<講師>

なみおかしんたろう
浪岡新太郎 (講演とパネル討論) 明治学院大学准教授

ふじまき ひでき
藤巻 秀樹 (講演とパネル討論) 北海道教育大学教授

さかもと ふみたけ
坂本 文武 (講演とパネル討論) 21世紀社会デザイン研究科特任准教授

かさほら きよし
笠原 清志 (モデレーター) 跡見学園女子大学教授・立教大学名誉教授

<総合司会> 中村 陽一 (21世紀社会デザイン研究科教授)

主催: 21世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所、社会デザイン学会

対象: 21世紀社会デザイン研究科学生、本学学生、教職員、校友、社会デザイン学会員、一般市民

問合せ先: 21世紀社会デザイン研究科委員長室 tel: 03-3985-2181
(月～金) 11:00～18:00

受 講 無 料 / 申 込 不 要

立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科は

現代社会の求める「NPO/NGO」と「危機管理学」を学べる日本で初めての大学院です